

バスケットボールの攻撃戦術の分類・整理と小学校における

学年別「課題ゲーム」の選定

発表者 都農町立東小学校 鬼塚 淳

記録者 串間市立都井小学校 図師 啓悟

| 発 言 者                       | 内 容  |
|-----------------------------|--|
| 宮崎大附属<br>野辺<br>発表者          | <p>○ 2年生はボールをもって走ってもよいのか？<br/>コートを使い方の負荷はどのように考えている？</p> <p>・ コートなどは実態に応じて変えてほしい。<br/>低学年は、攻めと守りがごっちゃになる。子ども達は団子状態になるから、攻めのみ、守りのもみの構成にしている。<br/>中学年は過渡的騒乱型。攻撃ゾーンに入れば攻撃できるような、ある一定の条件を満たせば攻撃できる構成。高学年は攻防騒乱型で課題ゲームの選定をしている。私の研究の柱はズレをつくるのが大切。低学年から系統的にズレをつくるゲームを入れている。<br/>系統的にドリルゲームを取り入れることで高学年になったときにバスケットボールらしくなると考えている。パスについても、実態に応じて決めてほしい。とりあえずは攻撃することを主眼に置いて動きを考えてほしい。</p>   |
| 宮内<br>発表者                   | <p>○ 攻防騒乱型とは、指導要領的に言うとゴール型とどのように違う？</p> <p>・ ゴール型と同じようなとらえ方でよいです。</p>  |
| 高千穂町教育<br>委員会 甲斐<br><br>発表者 | <p>○ 今回の教材を取り入れることでどう動けばよいか、どう助ければよいかを考えるとと思います。団子型の時にはこのゲームをすれば解消できるなど、実態に当てはめるとよくなると思います。また何年生でどのゲームを取り入れるかが大切かと思う。これらを、どのようにして学校で広め、活用していくとよいでしょうか。</p> <p>・ 前任校では研究したことをCDに入れて職員に渡して説明をした。しかし、この通りにするのは難しかった。特に高学年はスキルが身につけていないため、一連の流れで動けなかった。<br/>ボールはラインポートボールをお勧めした。低学年中学年は技能が定着していないのもう少しだった。このデータを小体連の方で広げていただきたい。<br/>実際に取り入れる際は、課題ゲームをベースにして単元構成・ゲームの内容の工夫を行ってほしい。</p> |